

### 法座案内

#### 三日講

宗祖を訪ねて

四月三日十四時

輪番

五月三日十四時

輪番

六月三日十四時

輪番

味読正信偈

四月十三日九時半

輪番

五月十三日九時半

輪番

六月十三日九時半

輪番

#### 定例法話

四月二十三日九時半

元大谷高校宗教科非常勤講師

佐々木文美師

五月二十三日九時半

大谷大学非常勤講師

藤原智師

六月二十三日九時半

大谷大学大学院生

村上良顕師

三月十一日午後三時より東日本大震災のお参りを「ご門徒と共に勤めましたことをここに報告いたします。」



## 各種教室

### 岡崎別院雅楽会

#### 四月開催日程

四月五日(木)十七時半

四月十二日(木)十七時半

四月十九日(木)十七時半

四月二十六日(木)十七時半

### 大正琴教室

#### 四月三日(火)

Aクラス 十三時

Bクラス 十五時

#### 四月十七日(火)

Aクラス 十三時

Bクラス 十五時



### 茶道教室

#### 四月開催日程

四月七日(土)十時

四月九日(月)十時

四月二十二日(日)十時

四月二十三日(月)十時

四月二十八日(土)十時

四月二十九日(日)十時



## 鏡池だより

第11号  
平成24年(2012年)  
4月・5月・6月号  
発行：編集 岡崎別院  
輪番 福田 大

「仏法には、世間のひまを闕かきてきくべし。世間のひまをあけて、法を聞くべきように思う事、あさましきことなり。仏法には、明日と云う事はあるまじき」  
蓮如上人御一代記聞書

「お寺の法座の参詣者数の多少は、そのお寺の住職の姿勢である。中でも報恩講の参詣者数の多少はそのお寺の住職の一年間の教化活動のパフォーマンスである」とは、ある師のお言葉である。以前、お参りの際あるご門徒に、「お寺にお参りしてほしい」とお願いすると、「お寺に行つてなにかええことあるんですか」と聞かれ、とつさに私は、「なにかええことがなければ行かないというそばん根性の私でありましたと、うなずかされることと出遇えますよ」というやりとりをしたことがあった。

たしかに仏法を聞かなくても生活ができ、生きていくことはできる。そうしたら、「聞いても聞かなくてもいいじゃないか」という発想をされる人も少なくないだろう。もちろん、お寺は儀式をするだけの場ではなく、仏法を聴聞する場でもあり、そのための参詣席をみなさまがたに提供する場であることをかんがみれ

ば、仏法の有無を沙汰するということは、同時にお寺の存在有無をも沙汰すること及びことではなからうか。

知らず知らず過去のことに話の花が咲くことがあるが、それは私の人生のアルバムをめくり返しているだけのことでないか。人間の過去には「他人に威張りたくなること」や「消しゴムで消したくなるようなこと」がいつぱいあるが、ただそのことを追憶するだけならば、それはただの「思い出つづりの人生」ではなからうか。そんな人生を宗祖親鸞聖人はこの私に「空過の人生」と喝破される。

「人生はやり直すことはできないが、見直すことはできる」は金子大栄師のお言葉である。自らの人生の中で「消しゴムで消したくなるようなこと」や「他人に威張りたくなること」しかない私が、生きてきた人生のアルバムの「コマ-コマをめくり返しているだけではない、このことひとつ」に出遇うためになくはないなら、大切な一つ一つであったというひるがえりこそが、仏法聴聞ということではなからうか。

お寺とは目先の得(ええこと)に存在する場ではなく、私自身の人生丸ごとの意味が見つかり、私が生まれた意義と生きる喜びに出遇つていく場ではないか。

蓮如上人は、「仏法には、世間のひまを闕(か)きてきくべし」と言われ、仏法は暇なときにきくのではない。することが山ほどあるときの中で時間を取り、聞くものであるといわれ、けつして暇つぶしに仏法をきくのではなく、問題山積の中にこそ仏法聴聞のときがあることを述べられた。

忙しいことを理由にして、暇になったら仏法聴聞するつもりでいるこの私にこそ「仏法には、明日と云(い)う事はあるまじき」と蓮如上人は言い当てられたのであろう。

# 分陀利華

## 悪重く障多きもの、 特に

### 如来の発遣を仰ぎ

先日、電話でお抜いを依頼された。断るのは簡単なことであるが、せっかくの問いかけのご縁を潰すことになる。また二つ返事で気安く受けてしまえば、呪術宗教に成り果てる。

電話というのは実にやっかいな道具で、相手の顔も表情もわからない。「なにをお抜いたいのか、お抜いをしてどうなりたいのか。そのことがはっきりしなければならぬのではないかと、これが私から依頼されたかたへの問いかけであった。

お抜いをするこの思いには、どうかいまの苦難から逃れることができ、これ以上の苦難に見舞われないようにと、仏の力を借りて、またお経の功德を借りてお頼みするということではないか。そのことは同時に、「仏の力を利用し、お経の功德を利用してまでも私の都合を充足させたい」という私の傲慢心の現われではないか。お抜いをし

なければならぬ私の利己主義を棚上げにして、すいすいと生きようとする身勝手な私の思い、その思いこそが、実は「悪重く障多きもの」と宗祖が言い当てられたわれではなかるか。

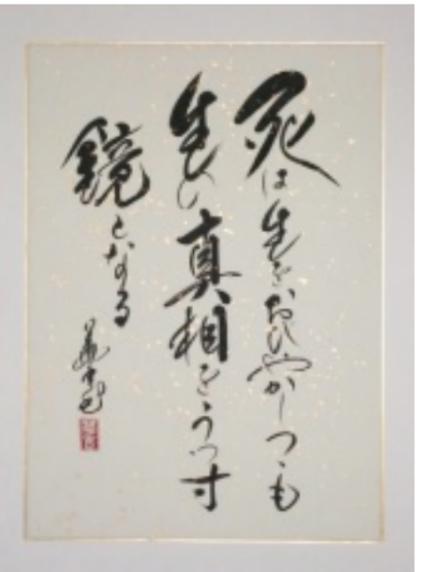
宮城顛師はさわりということについて、「日本の文化は特にさわりを大事にする。日本の楽器にはさわりがある。音がでにくくなるさわりがつけられている。さわりにおいてほんとうの自由がある。自分の思い通りにならないとき、はじめていのちの事実につなずけ、自己の本来になる。芝居の舞台などのさわりというのは、主人公がいちばん困難にぶちあたっている中でのものがきにおいて、すべての人間に響くようないのちの叫びがよびさまされる。障害にぶちあたっているところに精神が盛り上がってくる。無碍というのは他を妨げない、障害もないということではない。いかなる障害も本願の世界への扉となる。いかなる障害も道となり、障害こそが真実なるいのちに出遇っていく真実への扉となる」と口述されていた。

どのようにして苦難から逃れるかという眼から、その苦難から逃れたいとする私の利己主義性や、どこまでも身勝手なあり方が問われる眼への転換、その転換こそが如来からのほたらき(如来の発遣)であり、如来の眼を賜るということではないか。

ご依頼のあったお抜いの件は、いまだに連絡はないが、お参りの際には悪重く障多き私自身の生活を通じ、じっくりとお話をしたいものである。

## 華玄師より書の寄贈

山城第一組円光寺前坊守の書家華玄師(樋口克子氏)より額を寄贈いただきました。事務所に掲示してありますので、皆様どうぞご覧下さい。



## 製本機の寄贈



このたび、山城第一組専光寺住職中川専精氏より、製本機を寄贈いただきました。皆様方にご使用いただきますようお願いいたします。なお一冊五円です。詳細は別院までお問い合わせください。

# 別院往来

## 京都教区若狭地区 坊守研修会

三月十八日に若狭から約二時間の行程を、早朝よりバス三台に分乗してご来院されました。

研修に真剣に取り組んでおられる坊守の皆様が非常に印象に残っています。



## 慶縁の集い

二月十八日午後五時より慶縁の集いを開催しました。わた悟の社長によるハーモニカの演奏や、大正琴の演奏があり、終始華やかな雰囲気につつまれていました。



わた悟社長のハーモニカ演奏

## 中央仏教学院参拝

二月十四日に本願寺派中央仏教学院から総勢百六十名の生徒さんがお参りになりました。



## 結婚式掲示板

別院での挙式風景を掲載した掲示板ができました。



## 結婚式予約状況

二〇一二年

四月三十日 高木様

六月九日 木佐様

十一月三日 堀前様